

二中の木

学校報
第11号
H27/10/08



能代市立
能代第二中学校
TEL52-5138

平成二十七年、後期を迎えようとする今

あなたの志は、輝き続けていますか？



卒業まで半年の 三年生へ

三年生の皆さん、気付けば卒業まで半年を残すだけになってしまいましたね。卒業へ向かう皆さんに、あなたにとって、能代第二中学校での三年間はどんな三年間でしたか。」とたずねたら、どんな答えが返ってくるのでしょうか。

確かな 足跡を残して

学校の伝統とは、何連覇もし続けるような部活動があることでもなければ、ましてや学校創立からの年数でもありません。自分の後に続く後輩達に何かを残してやりたいという気持ちがある

何代にもわたって先輩から後輩に引き継がれていくことです。」という話をしたことがあります。

皆さんが、後輩のために残してやれる伝統とは何でしょうか。生徒会を中心となり後輩をリードしてきた三年生に、今あらためて聞きたいと思います。後輩達は、皆さんの卒業までの半年間の行動に、その答えを確かめようとするでしょう。三年生として後輩に引き継いでものをこれだ！という確かなものを一人一人が見出し出してください。残りの半年間は、言わば後輩が皆さんに課した「卒業試験」かも知れませんが、

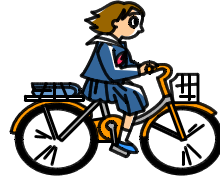
体育祭、春季・夏季総体、二中祭、二中若...どの行事一つとってみても、皆さんの活躍の様子が昨日のこのように思い出されます。自主・不屈・友愛の校訓のもと、持てる力を必死に出し切ろうとする皆さん



であれば、能代第二中学校での三年間が自分にとってどんな年月日になるようにしているのか、後輩に引き継ぐべき伝統は何なのか、自分なりの答えを出してくれるものと信じています。

「志」を もちつづけて

三年生は、進路実現に向けて精一杯の努力をしていると思います。生涯にわたって自分を高めるための目標も志。そして、間近に迫った高校入試は志への思いの強さが試される関門となります。



先人は、志のある者となし者を次のように見定めたそうです。自らの進路実現への思いは本物なのかを振り返ってみてください。改善が必要なら、今すぐにあため、志を確かなものにしてください。

～志～

- ある者
 - ・明確な目標
 - ・努力が習慣化
 - ・時間を意識
 - ・計画に自信
 - ・できる方法
 - ・他人への貢献
 - ・使命感
 - ・成功への意欲
 - ・新たな挑戦
 - ない者
 - ・曖昧な目標
 - ・気まぐれ努力
 - ・時間にルーズ
 - ・思いなき計画
 - ・できない言い訳
 - ・責任を回避
 - ・途中放棄
 - ・現状甘受
 - ・経験だのみ
- 人たるもの、自分への約束を破ることが最もくだらぬ～吉田松陰先生～

生徒会、部活を引き継ぐ 二、一年生へ

すでに三年生からバトンを受け取り、二年生を中心に部活動は動き始めています。これから引き継ぐことになる生徒会についても、何を求めどこへ進もうとしているのかを全員に考えてもらいたいと思います。



「志」を 高くかかげて

一灯を掲げて暗夜を行く
暗夜を憂えるなかれ
ただ一灯を頼むべし

一灯とは、自分の行く先を照らしてくれる明かりのことです。ここでの一灯とは、自分を高めるための目標、つまりは志を指します。志をもち、志の達成を信じていることが大切である。志を高く掲げ進んでさえいけば、暗闇だって怖くはない。志の灯を頼りに一心に歩みを進めなさい。と、という意味です。志のない人にとっては、暗闇に取り残されたような不安を感じてしまっているように。あらためて後期に向けて自分の志を確認しましょう。【終】